

変形性関節症は、「痛い」と言えないワンちゃん、ネコちゃんにとってとても辛い疾患です



変形性関節症は、関節軟骨に障害が起こり、その進行・悪化によって慢性的な痛みを生じる疾患です。

変形性関節症は、とても一般的な疾患です

変形性関節症は、10歳以上の犬の約45%、10歳以上の猫の約60%が患っている、とても一般的な疾患です。(日本大学調べ)

10歳以上の犬



10歳以上の猫



変形性関節症は、早期発見・治療が重要な疾患ですが、発見が遅れがちです。



ウチのこはどうかしら...

「散歩に行きたがらない」「立ち上がるのが辛そう」など、変形性関節症の徴候を飼い主が老化と考えてしまい、変形性関節症の発見が遅れがちになる場合があります。変形性関節症は、**早期に発見・治療を行うことで、進行を遅らせ、痛みを和らげることができます。**裏面にチェックリストを用意していますので、愛犬、愛猫に当てはまる項目がないか確認してみましょう。

● 変形性関節症チェックリスト ●

下記の項目の中で、当てはまるのは？	よくある	ときどき	全くない
1 寝た状態から起き上がる時、歩きにくそうにする			
2 車の乗り降りを嫌がる			
3 歩いている時に、腰の揺れが大きく見える			
4 遊んでいる時に奇声を発し、歩き方がおかしくなる			
5 急に歩くのを止めるようになる			
6 歩いている時に脚を上げたまま地に付けない			
7 階段の昇り降りを嫌がる			
8 脚を引きずるような歩き方をする			
9 歩くのを嫌がる			
10 脚や身体をさわると嫌がる			

1つでも「よくある」「ときどき」に当てはまるものがあれば当院へご相談ください

関節の健康検査を受けてみませんか？
健康検査で採取する尿でできる検査があります

シートーエヌイー

CINE検査

その子の関節、健康ですか



CINEは変形性関節症(OA)の初期段階で尿中に多く存在することが知られています

bch 物産アニマルヘルス

CIINE検査は愛犬、愛猫が「痛み」を感じる前から、尿中に放出されますので変形性関節症の早期発見につながります

機械的な関節異常



自己免疫疾患

関節症検知方法と発見ステップ



一度失われた軟骨は再生しませんので、早期に発見し、獣医師の指導のもと、予防・治療・軟骨の機能維持を行うことが重要です



CIINEの検査値から獣医師と相談しながら必要な追加検査を行い変形性関節症を特定します

